

# 樟蔭学園（学校でのコケ観察の事例としての報告）

調査日：2005年2月14日

調査地：東大阪市樟蔭学園

調査者：木村全邦・道盛正樹

## 1. 調査の概要

調査当日は樟蔭中・高等学校の久保先生のご案内で、事前にコケ植物が多い場所としてリストアップしていただいた地点を中心に調査を行いました。調査地点の様子は以下の通りです。

### 地点1) 正門付近

正門前には水路が流れていますが、校内とは塀で遮断されていて、直接の影響は受けていないようです。大体、乾燥した場所でしたが、塀沿いにクスノキが植栽されていて、その木にコケ植物が多く見られました。校舎側の土の上には帰化種のミカツキゼニゴケが発見されました。

### 地点2) 校舎間の盛り土付近

正門を入れてすぐの校舎と校舎の間にはかつて、スギゴケ類を植栽し日本庭園風にしたという一角がありました。スプリンクラーなどで水をまいているので、土壌は湿っていました。調査時点では、スギゴケが減って、ハネヒツジゴケ、ゼニゴケなどが多く入り込んでいました。ゼニゴケの仲間は庭掃除をするときにこまめにはがしているようですが、たくさんありました。ゼニゴケの仲間は無性芽（むせいが）というつぶつぶがたくさんできて、それが雨に流されて、クローンで増えます。ゼニゴケ類ははがせても、小さなつぶつぶの無性芽まで取り除くのは不可能なようです。

### 地点3) 校舎裏の絵の具洗い場付近

洗い場の沈殿槽近くの濡れた土上には帰化種のミカツキゼニゴケが見られました。種数は少なかったですが、付近の土上はコケに覆われていました。

### 地点4) 校舎裏南場

校舎と塀の間に位置する場所です。南場の土はよくひっくり返されているようですが、小型の茎が立つ蘚類がしぶとく侵入していました。

### 地点5) 渡り廊下陸橋

校舎間をつなぐ渡り廊下です。橋の上はアスファルト敷になっていて、両端にコケ植物が見られました。ここのコケは雨水の流れ道に沿って生えているように見えました。

### 地点6) 校長室裏

校長室の裏手の日本庭園風にした場所がです。ここはかつて池に水を張っていましたが、蚊の発生を押さえるために現在は抜いているそうです。そのため湿度分は低くなり、かつて密生したコケ植物はなくなってしまったそうです。わずかながら、植栽された庭木の根元にコケ植物がありました。

### 地点7) テニスコート

テニスコートは人工芝で覆われています。すみの方にホソウリゴケがありました。またコート内のクスノキ上にはたくさんコケが生えていました。

## 2. 結果と出現種

樟蔭学園内のコケ植物を調査した結果、蘚類19種、苔類9種、ツノゴケ類1種の計29種のコケ植物が確認できました。表1.に見つけたコケと生えていた場所をまとめてみました。

## 3. 考察

コケと生えていた場所の関係は木だけに生えていたもの10種類、土だけに生えていたもの14種類、アスファルトだけに生えていたもの1種類、コンクリートだけに生えていたもの1種類でした。

コケは種類によって生えている場所が違うことがよくわかりました。

例外的にギンゴケは木と土とアスファルトに，ハリガネゴケとホソウリゴケはアスファルトと土に生えていました。ギンゴケはどこにでも，ハリガネゴケとホソウリゴケは地面ならば，どこにでも生えるコケであると考えられました。

校庭内のコケの多そうな場所を大体 2-3 カ所調べれば，どんなところにどんなコケが生えているか，つまり，それぞれの種類に生態的な性格の違いがあることを理解できると思われます。また，数種だけをピックアップして，ゴケの一番好きな場所を探してみるという試みもできると思います。

表 1. 樟蔭学園内のコケの生育状況

種名/調査場所 No.	1	2	3	4	5	6	7
ナミガタチゴケ <i>Atrichum undulatum</i>		S				S	
ウスギゴケ <i>Polytrichum commune</i>		S					
ヤノウエアカゴケ <i>Ceratodon purpureus</i>		S	S				
ネジチゴケ <i>Barbula unguiculata</i>	S	S	S				
チュウコクネジチゴケ <i>Didymodon vinearis</i>					A		
コモチネジレゴケ <i>Tortula pagorum</i>							T
ヒダゴケ <i>Ptychomitrium fauriei</i>				C			
サヤゴケ <i>Glyphomitrium humiillimum</i>	T						
ヒナハコケ <i>Venturiella sinensis</i>	T						
ギンゴケ <i>Bryum argenteum</i>	T	S			A		
ホウリゴケ <i>Brachymerium exile</i>	S	S			A		S
ハリガネゴケ <i>Rosulabryum capillare</i>	S				A		
ココメゴケ <i>Fabronia matsumurae</i>	T						T
ノミハコゴケ <i>Haplocladium angustifolium</i>		S					
ハネツツゴケ <i>Brachythecium plumosum</i>		S		S			
ツクシナギゴケ <i>Eurhynchium savatieri</i>		S		S			
ヒロハツヤゴケ <i>Entodon challengerii</i>	T						
コモチイトゴケ <i>Pylaisiadelpha tenuirostris</i>	T						
ナガハシゴケ <i>Sematophyllum subhumile</i>	T						T
カラヤステゴケ <i>Frullania muscicola</i>	T						
ヒメアヤステゴケ <i>F. parvistipula</i>							T
ヒメミナリゴケ <i>Acrolejeunea pusilla</i>	T						
シヤゴケ <i>Conocephalum conicum</i>		S					
ヒメシヤゴケ <i>C. japonicum</i>		S					
シヅカサゴケ <i>Reboulia hemisphaerica</i> ssp. <i>orientalis</i>		S		S		S	
ミカヅキセゴケ <i>Lunularia cruciata</i>	S		S	S			
ノハハセゴケ <i>Marchantia paleacea</i> ssp. <i>diptera</i>		S	S				
セゴケ <i>M. polymorpha</i>		S	S				
ニワツバゴケ <i>Phaeoceros carolinus</i>		S					

表中, Aはアスファルト, Cはコンクリート, Sは土上, Tは樹幹に着生していたことを示す。



コモチイトゴケ：クスノキにたくさん着いていた。（地点1）



ウマスギゴケ：日本庭園風に植栽されたもの。環境が合わないせいか、わずかに残っているのみ。（地点2）



カラヤスデゴケ：クスノキに少し着いていた。（地点1）



ゼニゴケ：ミカツキゼニゴケとは無性芽（むせいが）を無性芽器（むせいがき；入れる入れ物）の形が丸いさかづき形なことで区別できる。コケの代表選手と思われるがちだが、実は街中にしかなく、山にはない。（地点2）



サヤゴケとギンゴケ（白い方）：クスノキに着いていた。ギンゴケが木の上に見られるのは珍しい。（地点1）



ヒメジャゴケ（黄緑色）とジャゴケ（深緑色）：ジャゴケは街中ではめったに見られないが山に行くと湿ったところに必ずと言っていいくらい見かける。おそらくウマスギゴケを植えたときに混じていたものと思われる。ヒメジャゴケはジャゴケよりずっと小型。コケでは珍しい1年性の種類で冬には枯れてしまう。暖冬により通常は枯れて見られないこの時期にも見られた。



ミカツキゼニゴケ：コケでは珍しい帰化種。土の上に生えていた。無性芽器は三日月形





もともとウマスギゴケを植えた場所は、見事にハネヒツジゴケだらけになっていた。(地点2)



フタバネゼニゴケ: 絵の具の水でも大丈夫なようで、汚染に強いと思われた。(地点3)



地点4



ヒダゴケ: コンクリートの上に生えていた。胞子体がたくさん出ている。街中ではなかなか見られないコケ。(地点4)



ハリガネゴケ: 葉は中部付近が最も幅広く、先端は中肋が突き出す。(地点5)



ギンゴケ: 胞子体はままだが、さくが下向きに垂れ下がるようにして着く。(地点5)



地点7



コモチネジレゴケ: オーストラリア原産の帰化種。テニスコートのクスノキに着いていた。(地点7)